

淡路納税貯蓄組合連合会

淡路納税貯蓄組合連合会の活動

淡路納税貯蓄組合連合会 会長 中村尚義

今年の研修旅行は奈良方面でした。旅程は比較的楽な日程で組んであり、会員であれば誰でも参加できます。以下、旅行の記録です。

昼食前に「筆づくり」を体験した。最後に行う「筆のノリ固め」の工程である。布海苔を充分染み込ませ余分なノリを取り除けば先の尖った真っ直ぐ伸びた筆が出来る上がる。誰にでも出来る作業ではあるが、これが難しい。筆を丸く真っ直ぐにするわけだが、歪んだり凹んだりして満足のいく形にはならない。「心の持ち方が悪いのか？」と先生に尋ねたら、「最初は誰でもそうだ。慣れると上手くいく。」との答えだったので安心した。綺麗な姿の筆に仕上げて貰った。自分で作った中筆と小筆を持って帰ることになった。持って帰る以上は使わないと意味が無い、ということで、「墨液」と「般若心経」の写経用のお手本を買って帰った。その後、写経は何となく続いている。

メインの「正倉院展」と「奈良公園散策」の前に、駅前前の豪華なホテルでバイキング形式の昼食をとった。私の前に座っていた女性会員が「食べているときが一番幸せ！」と言って、何度も往復していた。確かにそうだけど、何故だろう？食べているときが一番幸せとは？それはきっと、食べている時はほとんど何も考えないからか。何も考えない人間は「しあわせ」なんだ、ということに気づいた。人間は考える葦である、が故に。

奈良国立博物館で「正倉院展」(10/28-11/13)が開催されていた。その見学が目的の研修旅行でもあった。月曜日という一番人影が少ないと思われる奈良公園は、大変な人ばかりであった。勿論、この展覧会も目当ての一つであろうが、外国人観光客の多さには目を見張った。同じ古都と言えば京都の方が、知名度が高いかもしれないが、劣らぬ活況であった。正倉院が所蔵する作品がいにしへの日本の一部を物語っていると考えると、やはり、日本という国は大したものだ、立派な国だとつくづく思う。

日本は当時から縦型の社会だった。米国の建国とは随分違う。縦型社会は横糸が弱い。そのためには、裏面をノリで固めなければならない。これが所謂、裏の社会だ。



一般的に言うアウトローの裏社会ではなく、表を支える裏なのである。「正倉院展」を観るに当たり、幾つかその様な展示品が見受けられた。

「裏」という言葉から、バス通り裏、裏技、裏方、裏千家など日本の文化を支える言葉が思い浮かぶ。でも、裏稼業、裏金、裏企業などマイナーな「裏」は許されない。私達、納税貯蓄組合の仕事も、日本国家社会を支える裏方といえるかもしれません。

その業務内容は、

1. 租税の自主納付体制の確立及び期限内納付と振替納付の推進
 - ①振替納付税制度の利用拡大と併せてe-TAX・eLTAX(エルタックス)、ダイレクト納付の普及を図り、期限内納付の向上に努める
 - ②「消費税期限内完納の推進」消費税の滞納未然防止を目指す。
2. 納税意識の高揚

小学生、中学生及び高校生に対する、書道、ポスター、作文などの募集・審査・表彰する(全国規模で)。
3. 税知識の普及と正しい税の理解者、協力者の拡大
 - ①機関誌や会報の発行、各種説明会、研修会の開催
 - ②税に関する租税教育的な広報活動
 - ③小学校、中学校に出向き、租税教室を開催。

但し、全ての活動に於いて、会員が受益する活動(旅行や意見交換会など)は、自己負担となっていることを書き加えておきます。ただいま会員募集中です。ご入会を希望される方は事務局までご連絡ください。

街頭PR活動について

「平成29年度税を考える週間」行事の一環として11月10日に「街頭PR作戦」をイオン洲本店前で実施。税務広報チラシ、イータ君スポンジとティッシュを同封したものを1,000セット用意し、洲本税務署、兵庫県洲本県税事務所、洲本市税務課、淡路納税貯蓄組合連合会、公益社団法人淡路納税協会の総勢28名と、兵庫県の協力で、県

のマスコットキャラクターの「はばタン」も参加し、全員たすき掛けで約1時間PRを行いました。

